

教 育 研 究 業 績

氏名 池田 三鈴
学位： 人文科学修士

研 究 分 野

研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド

芸術学・健康・スポーツ科学・教育学

芸術学（舞踊）・上演舞踊学
身体教育学・教科教育学（保健体育）

主要担当授業科目

課題研究（身体表現・ダンスゼミ）A・B・幼児体育（身体表現）
健康領域指導法演習・幼児体育（運動あそび）

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1) 講座「舞踊創作法」における空間構成法と解釈分析の導入	2001年10月 ～ 2002年3月	舞踊教育学コースの講座「舞踊創作法」において、舞踊作品のテーマの決定、内容・解釈の掘り下げ、動きや新しい表現の探求、動きの技術・身体表現の追及に加え、空間構成法と解釈分析を導入した。 (お茶の水女子大学)
2) 「ジャネット・アズヘッドの舞踊分析法」の視点を活用した舞踊解釈の実践	2002年4月 ～ 2002年9月	舞踊教育学コースの講座「舞踊美学演習」の資料として、英国舞踊教育界の基礎理論の一つである「ジャネット・アズヘッドの舞踊分析理論」を舞踊の表象を分析する視点として整理し、現代の舞台上演における<振付家><ダンサー><観客>の関係性のディスカッションを深めた。 (お茶の水女子大学)
3) 「即興法」を用いた舞踊創作演習の実践	2002年10月 ～ 2003年3月	「即興法」を用いて、動きの発見と組み立てを行なう実技指導を実践。身体の赴くまま、必然的に生まれるムーブメントの流れや面白さの発見を促した。 (お茶の水女子大学)
4) 「野口体操」を用いた舞踊創作に向かうからだほぐしの実践	2002年10月 ～ 2003年3月	舞踊作品の創作に臨むボディコンディショニングとして、重さに貞(き)く、身体の骨格に貞(き)く「野口体操」を取り入れることにより、凝り固まった心身の解放とその後の創作活動への導入に効果をもたらした。 (お茶の水女子大学)
5) 高等学校「ダンスⅠ」における「スタート・アップ・ダンス」の考案と実践	2004年9月 ～ 2006年3月	高校1年生を対象とした授業「ダンスⅠ」において、パフォーマンスの達成までに必要な基礎技術の習得プログラムとして「スタート・アップ・ダンス」を考案。特に柔軟性、ボディコントロール、重心への内観を促した。 (お茶の水女子大学附属高等学校)
6) “個(ソロ)”の表現を引き出すパフォーマンスエリアの考案と実践	2004年9月 ～ 2006年3月	一人ひとりに畳2畳半分のパフォーマンスエリアを設定した創作と上演に取り組んだ。空間を限定することにより、生徒それぞれが持つ個性、世界観、間の取り方、空間性が凝縮された形で現れ、<個>がもつ表現の面白さ、深み、身体性に気づく効果をもたらした。 (お茶の水女子大学附属高等学校)
7) 「遊び」感覚を重視した身体表現あそびの考案と実践	2007年4月 ～ 現在に至る	講座「保育内容(表現-身体)」において実技力として手遊びやキッズダンスを習得すると共に、「遊び」感覚を重視した身体表現作品の創作や上演法を考案、実践。しりとりや絵本、オノマトペを用いることで保育学生のダンスへの苦手意識を低減した。 (埼玉学園大学、東京立正短期大学、東京成徳短期大学)

8) 指導案作成の視点を導く「運動あそび・からだあそび」模擬保育の実践	2008年4月 ～ 現在に至る	「運動あそび・からだあそび」の活動プログラム（20～30分）を考案し、保育現場を想定した模擬保育を授業内で実践。プログラムの考案を通して、より具体的に子どもの動きを予測することができ、導入のこつやレクリエーションゲームの効果的な使い方、具体的な言葉かけや空間構成（隊形）への理解を高めた。 (埼玉学園大学、淑徳短期大学、東京立正短期大学、東京成徳短期大学)
9) 保育学生の非認知能力を導く「身体表現パフォーマンス・プロジェクト（ALIVE）」の考案と実践	2009年4月 ～ 現在に至る	保育学生の身体表現の原体験を導く身体表現パフォーマンスプロジェクト（ALIVE）を考案、実践。表現の原体験のみならず、仲間との協働的・共感的関わりを通して、粘り強く取り組み達成する経験を引き出し、結果として保育学生に不可欠な非認知能力の向上を促した。 (埼玉学園大学、東京立正短期大学)
10) 「キッズヨガ」を導入した運動プログラムの導入と実践	2010年4月 ～ 2014年3月、 2018年9月 ～ 2019年9月	乳幼児期の子どもや親子の健やかな心と体、動きや関係性を引き出す手法として、キッズヨガの理論と実技方法を導入、実践。「運動」、「遊び」、「からだづくり」が一体化した運動プログラムを通して、仲間同士の触れ合いや大学近隣地域における親子のふれあいを引き出す効果をもたらした。 (淑徳短期大学、東京立正短期大学、東京成徳短期大学)
11) 実習への課題意識を高める「幼稚園実習」における事前ボランティア活動の実践	2011年9月 ～ 2013年3月	幼稚園実習の事前学習として、幼稚園、保育園、児童館等の保育現場でのボランティア活動の機会を設け、実習準備への意欲向上を図るなど、実習に向けた事前学習の課題を明確に把握し、実習準備への意欲向上を図った。 (東京立正短期大学)
12) 保育学生の非認知能力を導く「身体表現パフォーマンス・プロジェクト（ALIVE）」の再考と実践	2015年4月 ～ 現在に至る	9) の実践をさらに精査し、新たな学習環境のもと、短期大学の保育学生の表現体験を涵養する学習の場として「身体表現プロジェクト学習」（通称 ALIVE）として組み直した。創作・表現活動が本質的にアクティブ・ラーニングや非認知能力を高める特質を持つことに着目した。結果、専門的な技術習得をより高めると共に、総合的な人間力・即応力・忍耐力・課題解決能力の育成に効果をもたらしている。 (東京成徳短期大学)
13) 絵本『寿限無』ほか、を題材とした身体表現作品の創作と舞台上演	2014年4月 ～ 2015年9月	絵本「寿限無」（上方落語）、「ココロのヒカリ」（谷川俊太郎作）に想を得て、「絵本」から得られたイメージやメッセージを起点とし動きのモチーフ創作に取り組んだ。子どもが絵本を読む（見る）時に何を捉えているのか、余白や行間に込められたメッセージに考えを巡らせるなど、非言語的な表現に効果的なアプローチした。その成果は、「平成 27 年度保育研究発表会」のステージ部門において上演を実施。 作品名：「寿限無」「ココロのヒカリ」 (東京成徳短期大学 池田ゼミ)
14) 児童文学『不思議の国のアリス』を題材とした身体表現作品の創作と舞台上演	2015年9月 ～ 2016年9月	児童文学「不思議の国のアリス」（ルイス・キャロル作）に想を得て、テキストや世界観を掘り下げ、創作に取り組んだ。児童文学の世界を現代の自分たちに置き換え、解釈し直す学びを促した。その成果は「平成 28 年度保育研究発表会」のステージ部門において上演を実施。 作品名：「Alice in wonderland～私たちのアリス」 (東京成徳短期大学 池田ゼミ)
15) 学生のバイオグラフィを題材とした身体表現作品の創作と舞台上演	2016年9月 ～ 2017年9月	保育を学ぶ学生が自身のバイオグラフィを振り返り、身体・記憶に刻まれた「歴史の断片」をキーワードに創作に取り組んだ。自身の記憶をモチーフにすることにより、表現の深化やテーマにより深くアプローチする効果をもたらした。その成果は「平成 29 年度保育研究発表会」のステージ部門において上演を実施。 作品名：「REKISHI 《時を駆け抜けろ！》」 (東京成徳短期大学 池田ゼミ)

16) 「感情」と「色」を題材とした身体表現作品の創作と舞台上演	2017年9月 ～ 2018年9月	人間の「感情」と「色」の持つイメージを掛け合わせ、喜怒哀楽をテーマとした身体表現作品の創作に取り組んだ。創作過程で日常的に人間の行動観察を行うことで、意識化されていない感情の繊細さや、動きのニュアンス、力加減などに気づく効果をもたらした。その成果は「平成30年度保育研究発表会」のステージ部門において上演を実施。 作品名：「Emotion×Color～感情の三原色」 (東京成徳短期大学 池田ゼミ)
17) 北区子育て応援塾「ほっこり～の」における「親子ヨガ&ドレナージュワークショップ」の企画及び実践	2018年9月 ～ 2019年9月	講座「課題研究B(ゼミナール)」において、地域における子育て支援活動に関するグループ学習を行い、北区在住の未就園児の親子を対象とした「親子ヨガ&ドレナージュワークショップ」を企画。北区子育て応援塾「ほっこり～の」で実践。実践的な親子との触れ合いを通して、地域における子育て支援活動や保育者としての意識向上に効果をもたらした。その成果は「令和元年度保育研究発表会」の研究部門において発表。 (対象：未就園児親子約20名) (東京成徳短期大学 池田ゼミ)
18) 「黒」と「白」をモチーフとした身体表現作品の創作と舞台上演	2018年9月 ～ 2019年9月	「黒」と「白」という視覚的にも概念的にも相反するものに想を得て、作品テーマを掘り下げ、身体表現作品の創作に取り組んだ。テーマの社会的・概念的背景を理解することで、世の中の相反する事象やその性質、対称性の意味を深掘りし、表現にアプローチする機会となった。その成果は「令和元年度本学保育研究発表会」のステージ部門において上演を実施。 作品名：「黒白—kokuhaku—クロとシロが出会うとき」 (東京成徳短期大学 池田ゼミ)
19) 会場一体型パフォーマンスの創作と実践—「東京2020オリンピック応援ソング」をモチーフとして	2018年9月 ～ 2019年9月	本学の学生・教職員の参加する発表会会場が一体となる上演演出を実現するために、NHK教育番組などを通して日常的に子ども達が耳にしている東京2020オリンピック応援ソング「パブリカ」をモチーフに創案、実践。保育園や幼稚園の子どもが自然とダンスや歌を覚え、踊る感覚を共有する姿をイメージして真似て踊る場を想定して成功をもたらした。「令和元年度本学保育研究発表会」のステージ部門にて上演を実施。 (東京成徳短期大学 池田ゼミ)
20) 完全オンラインによる身体表現映像作品の創作・編集・公開実践	2019年9月 ～ 2020年9月	新型コロナウイルスの感染拡大により、手探りの中遠隔での作品創作に挑戦した。「四季」を作品テーマとして、Teamsのグループチャンネルを活用した創作分担、小グループによる分散創作、練習を実施。オンラインではあったが、小グループにすることにより、シーンテーマの明確化やアイディアの共有、映像を通じた反復練習などに効果が見られた。創作作品映像は、「令和2年度本学保育研究発表会」のオンライン発表会で公開。 作品名：「SEASONS—ともに」 (東京成徳短期大学 池田ゼミ)
21) オンライン創作×対面撮影による身体表現映像作品の創作・編集・公開実践	2020年9月 ～ 2021年9月	コロナ禍が長期化する中、オンラインでの創作と対面での動きの確認・練習を織り交ぜた映像作品の創作活動を実施。昨年度の経験を生かし、オンラインで効果的に進めることができる創作部分、対面で集中的に固める作品科の部分に分けて実施。対面撮影では、学内施設を活用してオンラインとリアル混在する演出に取り組んだ。創作作品映像は「令和3年度本学保育研究発表会」のオンライン発表会で公開。 作品名：「I wanna dress up and go out.」 (東京成徳短期大学 池田ゼミ)
22) フリードリヒ・ニーチェの「愛」にまつわる言葉に想を得た身体表現作品の創作・上演	2021年9月 ～ 2022年9月	19世紀における代表的な実存主義の思想家であるフリードリヒ・ヴィルヘルム・ニーチェの「愛」に言及した言葉に想を得て、身体表現作品の創作に取り組んだ。そばに寄り添う愛、見守る愛、ぶつかる愛、共にある愛等、創作に臨む学生にとって等身大の愛の有り様や形について考えを深め、気づき表現に昇華する機会となった。その成果は、「令和4年度本学保育研究発表会」のステージ部門にて発表した。 作品名『愛～ツナグ・ツナゲル～』 (東京成徳短期大学 池田ゼミ)

23) Birth	2022年9月 ～ 2023年9月	作品テーマ「Birth」をRADWIMPSの楽曲に結びつけ、新たな自分が生まれ出る瞬間やその戸惑い、感動に着想を得て、身体表現作品の創作に取り組んだ。その成果は、「令和5年度本学保育研究発表会」のステージ部門にて発表した。 作品名『Birth—この場所—』 (東京成徳短期大学 池田ゼミ)
2 作成した教科書、教材		
1) 「保育内容／健康」講義用ワークブックの作成、製本化	2007年4月 ～ 現在に至る	履修者の理解度に合わせた独自のワークブックを製本することにより、学習の振り返りと定着が飛躍的に向上した。指定教科書と併用することにより「自ら気づき学び取る」学習ツールとして、例年履修者による授業評価でも高い評価が得られている。 2017(平成29)年度より予算化し、製本化することで、定期試験、公務員試験等での反復学習をより効果的に行えるようになった。
2) 教材用キッズダンスレパトリー作品の制作	2007年4月 ～ 現在に至る	保育現場の子どもとの実践を重ねたキッズダンスのレパトリーを教材として創作し直すことにより、既製品では伝えきることのできない、子どもの運動発達を見通した動きの構成方法や、創作のメッセージ性・表現性について、双方向から理解できるように工夫している。
3) 保育現場における「発表会」の理解を深める映像教材の作成	2009年11月～ 現在に至る	調査協力園の理解を得て、研究資料(映像)の一部を活用して幼児期の運動発達に基づいた援助方法に関する教材として作成した。履修者が子どもの姿を映像で見ながら学ぶことにより、より鮮明に子どもの身体表現の実際の姿を掴むことができ、具体的な指導について理解する力が向上した。
4) 改訂新版『保育内容「健康」-生きる力を育む健やかな心とからだ-』	2017年9月	2017年度より「健康領域指導法演習」の講座において教科書として使用。現場の保育者、養成校の学生が共に学べるよう、項目ごとに分かりやすく事例をあげながら、理論的・実践的な内容として論じた。全135頁うち、第6章「健康に生きる力を育む」87-101頁を執筆。 (大学図書出版)
5) 『運動あそび・表現あそび-指導方法を身につける理論と実例-』	2018年9月	2018年度より「幼児体育(運動あそび)」、「幼児体育(身体表現)」の教科書として使用。あそびの持つ本質としての楽しさや喜びに子どもたちが気づくことができるよう、事例を挙げながら論じた。全141頁うち、50-52頁、77-80頁、114-118頁、121-125頁、135-137頁を執筆。 (大学図書出版)
6) 『乳幼児の健康—教育・保育に向けた計画と実践』	2019年9月	2020年度より「健康領域指導法演習」の教科書として使用。2019年4月からスタートした新法令に準拠し、領域「健康」を通して年齢区分に対応する「ねらい及び内容」、「健康と安全」及び「子どもの健康をめぐる現代の課題」などを分かりやすく論じた。全165頁うち、19-24頁、90-96頁、156-163頁を執筆。 (大学図書出版)
7) 講義「健康領域指導法演習」の講義映像の制作と配信	2020年5月 ～ 2020年8月	遠隔受講による学びの充実を図るため、オンデマンド授業に対応する講義映像の制作を実施。ワークや考察課題、クイズなどを盛り込み、YouTubeで繰り返し視聴することにより、基礎学習の理解を深める効果をもたらした。 (Youtube 限定配信)
8) 『オンライン授業に対応 乳幼児・児童の運動遊びと表現あそび—からだこころを育む指導法—』	2022年3月	2022年度より「幼児体育(運動あそび)」、「幼児体育(身体表現)」の教科書として使用。教育実習や保育実習に役立つ指導案の実例を豊富に取り入れると共に、オンライン保育や教育に対応できる指導や実践例を示すことで、新たな状況に対応した内容として構成を工夫したものである。全189頁のうち、97-105頁、139-144頁を執筆。 (大学図書出版)

9) 改訂版『オンライン授業に対応 乳幼児の健康—教育・保育に向けた計画と実践』	2023年3月	2023年度より「健康領域指導法演習」の教科書として使用。保育を学ぶ上で、必要とされる教職課程のコアカリキュラムの策定に従った「領域論」と「保育内容の指導法」の講座に対応できる内容で構成。予測不可能な専門学習に備え、オンライン教材も新たに組み込んだ。全181頁のうち、15-20頁、126-131頁、163-169頁を執筆。 (大学図書出版)
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
自己点検、授業評価アンケートによる授業評価と点検、見直し	2007年4月 ～ 現在に至る	2007年以降、現在に至るまで継続的に大学の授業評価アンケートでは、4.4~4.9までの評価となり、平均4.5~4.6前後の授業評価を維持。 また自己点検、自己評価の一環として講座の初回と最終回に独自の質問用紙を配布し、講義についての学習達成度や課題について学生に回答を求めている。大学で実施される授業評価アンケートと照らし合わせ、自身の授業構成や展開についての点検と見直しに努める。
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
1) 自主公演「ALIVE」制作 デュオ作品「facing/duo」創作・出演	1997年9月	武庫川女子大学ダンス部(平成8年度卒業生)による自主公演の共同企画、制作ならびにデュオ作品の創作、出演 (兵庫県立ピッコロシアター大ホール)
2) 舞踊作品「我が人生はタンゴ？」出演	1998年3月	Ishiguro Dance Theatre(※)自主公演の制作協力・シーン創作・出演 (天王洲スフィアメックス) ※お茶の水女子大学大学院石黒節子教授主催舞踊団 (以下 IDT と省略)
3) 第10回全国高校・大学ダンスフェスティバル神戸「コンクール部門」 日本女子体育連盟賞 受賞 (群舞指導)	1998年 6~8月	お茶の水女子大学石黒節子教授主導の元、上演舞踊学研究室の大学院メンバーとしてお茶の水女子大学舞踊教育学コース作品に対する群舞の実技指導 (共同) (神戸文化大ホール)
4) International Dance Festival・Wien プロシリーズ 出場	1998年8月	書類(経歴、小論文)、実技映像審査通過後、現地にて舞踊作品創作グループのメンバーとして、作品創作、出演 (Wiener VOLKSTHEATER, オーストリア、ウィーン)
5) デュオ作品「くうねるあそぶ」創作・出演	1998年9月	共同舞踊公演「シアター21」にデュオ作品を出品、出演 (神楽坂セッションハウス)
6) 新宿グローブ座10周年記念公演出演 (近藤良平主催コンドルズと共同出演)	1999年3月	舞踊家北村明子振付舞踊作品「bitter sidewinder」に出演 (新宿グローブ座)
7) トリオ作品「Gravity Movement」創作・出演	1999年9月	共同舞踊公演「シアター21」に作品出品、出演 (神楽坂セッションハウス)
8) 静岡県清水市主催「羽衣シルフィード」出場	1999年10月	舞踊家 清水(福本)まあや振付、お茶の水女子大学チーム舞踊作品「風に吹かれて」出演 (野外特設能舞台, 静岡、天橋立)
9) ソロ作品「トゥ more」創作・出演	1999年12月	第32回武庫川女子大学ダンス部単独公演にソロ作品を出品・出演(招待) (芦屋ルナホール, 兵庫)
10) 舞踊作品「凶譜踊」出演	2000年4月	インセクタ・ラボ単独公演、舞踊家野口暁振付作品に出演、創作協力 (天王洲スフィアメックス)
11) 自主公演「開かれた関係性」制作、ソロ作品「free flow」創作・出演	2000年5月	お茶の水女子大学大学院上演舞踊学研究室のメンバーによる実験的舞台制作のユニット<イングロ・ダンス・ラボ'00>による、実験的単独パフォーマンス「開かれた関係性」の企画、制作、創作、出演 (広尾ギャラリー‘親ちか’)
12) 第12回第全国高校・大学ダンスフェスティバル神戸「コンクール部門」 審査員賞 受賞 (群舞指導)	2000年 7~8月	武庫川女子大学徳家雅子助教授主導の元、武庫川女子大学ダンス部作品に対する群舞の実技指導 (共同) (神戸文化大ホール)

13) 築地本願寺第4期現代塾 舞踊公演 出演	2000年9月	IDT 舞踊公演「シャクンタラー姫」の制作、出演 (築地本願寺本堂, 東京)
14) 宇宙航空研究開発機構 (JAXA)「飛天 プロジェクト」共同研究、実践協力	2001年4月	企画進行における共同研究、実践協力。 研究代表者: 石黒節子 (お茶の水女子大学大学院教授) (※2009年4月30日(木) 若田宇宙飛行士によって宇宙 空間で実現) (お茶の水女子大学上演舞踊学研究室)
15) 芸術文化振興基金助成公演 「輪舞ーロンド」の制作、出演	2001年6月	IDT 定期舞踊公演「輪舞ーロンド」の制作、出演 (協賛; EPSON) (東京芸術劇場中ホール)
16) 第13回第全国高校・大学ダンスフェ スティバルー神戸「コンクール部門」 特別賞ーすぐれた動きのテクニック 受賞 (群舞指導)	2001年 7~8月	武庫川女子大学徳家雅子助教授主導の元、武庫川女子大学 ダンス部作品に対する群舞の実技指導 (共同) (武庫川女子大学)
17) 東京都現代美術館ダンス企画 "Saturday night Performance" 制作統括・出演	2001年11月	美術館におけるダンスパフォーマンスの制作リーダー、 「Lighting Costume」出演 (IDT 主催) (東京都現代美術館)
18) 第29回現代舞踊展 出演	2002年7月	現代舞踊の主たる振付家による共同公演において 「Somatic Danceー夕暮れの思考」(IDT 作品)に出演・出 演者リーダー (東京メルパルクホール)
19) お茶の水女子大学附属高等学校にお ける教育実習生の指導	2002年9月 ~2006年3月	お茶の水女子大学文教育学部より受け入れた、高等学校教 諭一種免許状 (保健体育) 取得の教育実習生の受け入れ、指 導。 (お茶の水女子大学附属高等学校)
20) 宇宙航空研究開発機構 (JAXA)、 EPSON 協賛 舞踊公演制作、出演	2002年10月	IDT 定期舞踊公演「今語り、光の君のものがたり」「Somatic Dance」制作・出演、「Somatic Dance」創作リーダー (東京芸術劇場中ホール)
21) デュオ作品「Romanticaー向かい合う M」創作・出演	2003年1月	共同舞踊公演「シアター21」に作品出品、出演 (神楽坂セッションハウス)
22) 自主公演「Magnolia」制作、ソロ作品 「φロマンチカ」創作・出演	2003年5月	武庫川女子大学ダンス部(平成8年度卒業生)による自主公 演の企画、制作ならびにソロ作品、大作シーン「夜明け」(ソ ロ)、「魚」(デュオ)の創作・出演 (兵庫県立ピッコロシアター大ホール)
23) 自主公演「ゆらめく空間性」制作、デ ュオ作品「ネムルオンナ」創作・出演	2003年6月	お茶の水女子大学大学院上演舞踊学研究室のメンバーによ る実験的舞台制作のユニット<イシグロ・ダンス・ラボ'03> による、実験的単独パフォーマンス第2弾、「ゆらめく空間 性」の企画、制作、デュオ作品の創作、出演 (麻布 die prätze)
24) 日本国文化庁助成事業、日中平和友好 条約25周年記念事業、舞踊公演出演	2003年10月	IDT 舞踊公演「Hikaru Genji」「Somatic Dance」の制作、 出演、出演者統括 (上海大劇院中ホール, 中国, 上海)
25) 日本国文化庁助成事業 日韓平和友好 条約25周年記念事業、舞踊公演の制 作・出演	2003年11月	IDT 舞踊公演「Hagoromo」、「Somatic Dance」の統括、出 演、出演者統括 (Little Angels 大劇場, 韓国, ソウル)
26) 第18回ヨコハマ・コンペティション、 「モダンシニア部門」ソロ出場、入賞	2003年11月	社団法人神奈川県芸術舞踊協会主催、ダンスコンペティシ ョンにてソロ作品「φロマンチカ」の出品、出演 神奈川県芸術協会努力賞受賞 (神奈川県立音楽堂)
27) NTT インターコミュニティセンタ ー、(ICC) 主催 パフォーマンス 「EMOTION as media」制作・出演	2003年12月	美術館における野外ダンスパフォーマンスの制作統括、 「Somatic Dance」出演 (東京オペラシティ・ガレリア)
28) 第14回(財)松山バレエ団、顕彰教 育賞受賞記念、舞踊公演 ソロ作品創 作・出演	2004年10月	IDT 受賞記念 舞踊公演におけるソロ作品「レムリアのこ ども」の出品と出演 (東京芸術劇場中ホール)

29) お茶の水女子大学附属高等学校 第56回ダンスコンクール特別審査員	2004年11月	昭和23年より継続する校内ダンスコンクールにおいて、 舞踊、身体表現の専門家として特別審査員を務める。 (お茶の水女子大学附属高等学校)
30) 第19回ヨコハマ・コンペティション、 「モダンシニア部門」ソロ出場、入選	2004年11月	社団法人神奈川県芸術舞踊協会主催、ダンスコンペティ ションにてソロ作品「レムリア〜研(こだま)するユメ」の創 作作品、出演、入選 (神奈川県立音楽堂)
31) お茶の水女子大学附属高等学校 第57回ダンスコンクール特別審査員	2005年11月	29)と同様 (お茶の水女子大学附属高等学校)
32) お茶の水女子大学附属高等学校 第58回ダンスコンクール特別審査員	2007年11月	29)と同様 (お茶の水女子大学附属高等学校)
33) 「野口体操」関連書籍『野口体操ーマ ッサージから始める』への動きの見本 掲載	2008年4月	野口体操の第一人者として研究指導活動を実践する羽鳥操 氏による、野口体操関連書籍「野口体操ーマッサージからは じめる」に動きの見本協力、掲載 (朝日新聞出版)
34) お茶の水女子大学附属高等学校 第59回ダンスコンクール特別審査員	2008年11月	29)と同様 (お茶の水女子大学附属高等学校)
35) お茶の水女子大学附属高等学校 第60回ダンスコンクール特別審査員	2009年11月	29)と同様 (お茶の水女子大学附属高等学校)
36) お茶の水女子大学附属高等学校 第61回ダンスコンクール特別審査員	2010年11月	29)と同様 (お茶の水女子大学附属高等学校)
37) 高校生対象「公開講座」講師	2011年4月	高校生を対象とした公開講座「YOGAでふれあおう」の講 師を務める。 (東京立正短期大学)
38) 大学近隣地域における「リトルキッズ ヨガ」親子講座 講師	2011年6月 7月	杉並区在住の未就園児の親子を対象とした子育て支援活動 として、「親子でリトルヨガ」を企画、実践。日常的な子育 での視点をリフレッシュし、身体を用いた多面的な親子の触 れ合いの実践とその効果を紹介。 (対象：未就園児親子約40名、杉並保育室「そら」)
39) お茶の水女子大学附属高等学校 第62回ダンスコンクール審査員	2011年11月	29)と同様 (お茶の水女子大学附属高等学校)
40) 福島県郡山市教育委員会後援 東日本大震災、被災地支援活動 「親子でリトルヨガ」講師	2012年9月	「原発事故を受けた子どもの日常回帰を支援する“表現あそ びプログラム」(日本学術振興会 科学研究費「若手B」、研 究課題番号：24700627)の研究協力者として、福島県郡山市 において未就園児の親子を対象としたヨガプログラムを考 案、実践。 (郡山市在住 未就園児親子 30名程度)
41) 再版『野口体操ーマッサージからは じめる』への動きの見本掲載	2012年10月	33)の再版として刊行された野口体操の第一人者、羽鳥操 著「野口体操ーマッサージからはじめる」(再版)に動きの見 本協力・掲載 (筑摩書房)
42) お茶の水女子大学附属高等学校 第63回ダンスコンクール審査員	2012年11月	29)と同様 (お茶の水女子大学附属高等学校)
43) 東京立正短期大学「公開講座」講師	2013年7月	大学の近隣地域である杉並区在住の市民を対象とした公開 講座の講師を務める。 (東京立正短期大学)
44) お茶の水女子大学附属高等学校 第64回ダンスコンクール特別審査員	2013年11月	29)と同様 (お茶の水女子大学附属高等学校)
45) 川口ふたば幼稚園「お遊戯会」 アドバイザー	2013年 11月~12月	保育現場におけるお遊戯会リハーサルから本番までの作品 創作、表現の指導や運動発達に適應した動きの提案に関する 指導・助言を務める。 (川口ふたば幼稚園)
46) お茶の水女子大学附属高等学校 第65回ダンスコンクール特別審査員	2014年4月	29)と同様 (お茶の水女子大学附属高等学校)

47) 大学近隣地域における「リトルキッズ ヨガ」親子講座 講師	2014年7月	39)の継続版として、杉並区在住の未就園児の親子を対象とした子育て支援活動として「親子でリトルヨガ」を企画、実践。日常的な子育ての視点をリフレッシュし、身体を用いた多面的な親子の触れ合いの実践とその効果を紹介した。 (対象：未就園児親子約20名、杉並保育室「そら」)
48) 日本女子大学通信教育課程児童学科 「保育内容指導法(健康)」講師 夏期スクーリング	2015年8月 1日～6日	通信教育課程において、現職保育者や保育についてより広く学びたいという意欲をもち集まる幅広い年代層(30～50代)の受講生約40名に対して「保育内容指導法(健康)」の集中講義(スクーリング6日間)を担当。 (日本女子大学)
49) 「わくわく体操広場」、「園内研修会」 講師	2015年8月	東京成徳短期大学附属第二幼稚園において例年開催される「親子を対象としたワークショップ」並びに、現職教員を対象とした「園内研修会」の講師(講習会の内容は下記の通り)。 「運動あそびワークショップ」 ：ココロとカラダを整える Little Kid's Yoga (年少児クラス親子16組) 「園内研修」：呼吸と身体から心を整える～セルフメンテナンスとしてのボディワーク (現職者20名程度) (東京成徳短期大学附属第二幼稚園)
50) フォーマザー保育園 フォーマザー西立野保育園 幼児体操の監修ならびに実技指導	2015年11月	川口市内において第2種社会福祉事業(保育園、子育て支援センター)、川口市家庭保育室、学童保育等の事業展開を行う株式会社フォーマザーの依頼により、保育園二園で幼児期にある子ども達が毎朝行う「幼児体操(フォーマザー体操)」のプログラム助言と実技指導を行う。
51) お茶の水女子大学附属高等学校 第66回ダンスコンクール特別審査員	2015年11月	29)と同様 コンクールテーマ「瞬彩(しゅんさい)」 (お茶の水女子大学附属高等学校)
52) 「第50回保育研修会」分科会講師	2015年11月	現職保育者を対象とした保育研修会(第三分科会)「身近な素材～新聞紙と楽しむキッズダンス!」講師 新聞紙という定番の表現素材を「ストーリー」で楽しむことにより、より独創的で子どもたちの遊び心とチャレンジ精神を引き出す活動へと展開。夢中になる、素材と遊ぶ、仲間を感じるストーリーの創作方法を紹介。 (東京成徳短期大学)
53) 千代田区立ふじみこども園 「平成27年度園内研修会」講師	2015年12月	千代田区立ふじみこども園において開催された「平成27年度園内研修会」において研修テーマ「幼児期への基盤を作る動きの獲得を探る」に基づき、園内観察と研修会における指導助言を行った。(千代田区立ふじみこども園)
54) 株式会社ヤクルト企業内保育室にお ける保育内容の企画展開に関する指導・ 助言	2016年3月	株式会社ヤクルト保育担当課からの依頼により、企業内保育室として保育事業を全国的に1,163園(平成26年度)展開する園の今後の保育活動・運営プログラムの質的向上と保育組織の育成に関する指導。保育士の資質向上に関するプログラム提案、年間保育計画のアイデア展開など、保育活動を質的に向上するために必要な視点について助言。
55) さいたま市中央区幼稚園協会教職研 修会「身体表現・ムーブメント教育の現 状と課題について」講師	2016年9月	さいたま市中央区私立幼稚園協会からの依頼により、中央区私立幼稚園教諭を対象とした現職講習会「身体表現・ムーブメント教育の現状と課題について」の講師を務めた。 (現職者80名程度) (さいたま市与野本町コミュニティーセンター大ホール)
56) お茶の水女子大学附属高等学校 第67回ダンスコンクール特別審査員	2016年11月	29)と同様 コンクールテーマ「ALL MY TEA」 (お茶の水女子大学附属高等学校)
57) お茶の水女子大学附属高等学校 第68回ダンスコンクール特別審査員	2017年11月	29)と同様 コンクールテーマ「TEAnager」 (お茶の水女子大学附属高等学校)

58) 2018 年度教員免許状更新講習会 講師	2018 年 6 月	幼稚園教諭免許状の更新講習会における選択講習「心が動く、体が動く-子どもと拓く身体表現」の講師として、子どもの表現を受け止めるための身体と表現発達の理論について学習しながら、身体表現が苦手な子どもや活動に参加しない子どもへの本質的なアプローチについての実践的な学びを構成した。 (受講者数 50 名程度, 東京成徳大学・東京成徳短期大学)
59) お茶の水女子大学附属高等学校 第 69 回ダンスコンクール特別審査員	2018 年 11 月	昭和 23 年より継続する校内ダンスコンクールにおいて、舞踊、身体表現の専門家として特別審査員を務め、審査及び講評を行なった。 コンクールテーマ「晴瞬(せいしゅん)」 (お茶の水女子大学附属高等学校)
60) 2018 年度川口市保育所等職員研修会 講師	2018 年 11 月	川口市内の保育所等において保育に従事する職員の資質向上を目的とする研修会の講師として、「乳幼児の運動とその効果」について講習会を実施した。 (受講者数 140 名程度, 川口市南消防署横曽根分署)
61) 2019 年度教員免許状更新講習会 講師	2019 年 6 月	幼稚園教諭免許状の更新講習会における選択講習「子どもの身体表現とリズム」の講師として、様々なリズム教育についての基礎知識や歴史的背景に触れながら、現代に生きる子どもたちの育ちと照らし合わせ実践的な学びを構成した。 (受講者数 50 名程度, 東京成徳大学・東京成徳短期大学)
62) 2019 年度川口市保育所等職員研修会 講師	2019 年 6 月	川口市内の保育所等において保育に従事する職員の資質向上を目的とする研修会の講師として、「乳幼児の運動とその効果」について講習会を実施した。 (受講者数 180 名程度, 川口市役所鳩ヶ谷庁舎)
63) 東京成徳大学・東京成徳短期大学×北とびあコラボ企画「多目的ルームで子どもワークショップ～素材を使ってからだであそぼう!!」企画及び実践指導	2022 年 12 月	北とびあのみなぐみ共同事業所より依頼を受け、東京成徳大学子ども学部と東京成徳短期大学幼児教育科が、北区在住の 3～6 歳の親子を対象とした親子ワークショッププログラム(2 回開催)を企画し、1 回目を子ども学部、2 回目を幼児教育科が担当。企画打ち合わせ及び、実践における指導を行った。地域における子育て支援の実践を通して、支援の意義や保育者の役割についての意識の向上に効果をもたらした。 (北とびあ 多目的ルーム)
64) 日本教育大学協会全国保健体育・保健研究部門 舞踊研究会 第 42 回全国創作舞踊研究発表会(千葉大会)(授業作品部門)への出場指導	2022 年 12 月	日本教育大学協会全国保健体育・保健研究部門 舞踊研究会 第 42 回全国創作舞踊研究発表会 千葉大会(授業作品部門)に東京成徳短期大学幼児教育科より初出場。出場にあたり、全面的な創作・演出指導。 作品名『イヴと林檎』 (青葉の森芸術文化ホール)
65) さいたま市中央区私立幼稚園研修会 講師	2023 年 5 月	さいたま市中央区私立幼稚園協会からの依頼により、中央区私立幼稚園教諭を対象とした現職講習会「発達段階に合わせた運動あそび」の講師を務めた。 (現職者 80 名程度) (さいたま市与野本町コミュニティセンター大ホール)
66) お茶の水女子大学附属高等学校 第 73 回ダンスコンクール特別審査員	2023 年 11 月	昭和 23 年より継続する校内ダンスコンクールにおいて、舞踊、身体表現の専門家として特別審査員を務め、審査及び全校生徒への講評を行なった。 コンクールテーマ「Chameleon」 (お茶の水女子大学附属高等学校)
67) 日本体育大学教授笠井理津子勇退 記念発表会出演	2024 年 3 月	全国・表現運動授業研究会のメンバーとして幼稚園・小学校教育現場の教材として大人気の「あるあるダンス～学校シリーズ」に出演 (狛江エコルマホール)
5 その他		
1) 第 18 回ヨコハマコンペティション(ダンスコンクール) シニア・ソロ部門、入賞神奈川県芸術舞踊協会努力賞(再掲)	2003 年 11 月	神奈川県芸術舞踊協会主催、第 18 回ヨコハマコンペティション(ダンスコンクール) シニア・ソロ部門、入賞。優れた創作舞踊作品・上演(ソロ部門)として評価。 作品名:「ロマンチカ」

2) 第19回ヨコハマコンペティション(ダンスコンクール) シニア・ソロ部門、入選(再掲)	2004年11月	神奈川県芸術舞踊協会主催、第19回ヨコハマコンペティション(ダンスコンクール) シニア・ソロ部門、入選。 作品名:「レムリアのコドモ」		
職務上の実績に関する事項				
事項	年月日	概要		
1 資格, 免許				
1) 中学校教諭一種免許状(保健体育)	1996年3月	平8中1第1228号(大阪府)		
2) 高等学校教諭一種免許状(保健体育)	1996年3月	平8高1第1410号(大阪府)		
3) 中学校教諭専修免許状(保健体育)	2001年3月	平14中専第13号(東京都)		
4) 高等学校教諭専修免許状(保健体育)	2001年3月	平14高専第21号(東京都)		
5) Yoga Ed. Pre-K 講師資格	2009年2月	Yoga Education Pre-School curriculum 認定講師 (2歳から6歳を対象としたヨガの運動プログラム実践やワークショップの開催、講座開講に関わる資格)		
2 特許等 特記事項なし				
3 実務の経験を有する者についての特記事項				
1) 一般財団法人「日本キッズコーチング協会」(JAKC) 理事	2010年11月 ～現在に至る	舞踊教育学、身体教育学の専門家として一般財団法人日本キッズコーチング協会の理事を務め、乳幼児期、学童期における身体表現、運動プログラムの考案や助言、現場実践、共同研究等を行う。		
2) 学務部員	2015年4月 ～2017年3月	学科オリジナルの教員向け教務手続き関連の指南書「授業の手引き」の制作を担当、新規発行(2016年3月発行、2016年度より運用開始)。本学の3つのポリシーを踏まえた教育活動がスムーズに展開されるよう、実務的な側面、学務的な側面の情報や学生の教育指導方針の共有などについて学務部会で協議を重ね、刊行まで取りまとめた。 (東京成徳短期大学)		
3) 学生部 学生係長	2018年4月 ～2022年3月	学生が学園内で安心・安定した学生生活が行えるよう、学生自治活動、クラブ・サークル活動、学園祭やスポーツ大会等の行事運営の支援を中心に統括。特に2020年度以降は、新型コロナウイルスの感染拡大の社会状況を踏まえた行事運営や学生生活の支援に尽力した。 (東京成徳短期大学)		
4) 幼児教育科 HP 広報係長	2021年4月 ～2022年3月	短期大学の教育研究活動の情報発信を目的とし、下記について、係メンバーと連携し企画立案、遂行。 ・学科オリジナルプロモーション映像の企画起案、制作委託、公開(2022年3月公開) ・学科公式 Instagram の立ち上げ、運用開始(2022年6月～) ・学科オリジナルウェブサイトの企画・制作・公開(2023年5月公開) (東京成徳短期大学)		
5) 幼児教育科 進路係長	2023年4月 ～現在に至る	短期大学の進路・主に就職に関わる年間9回のガイダンス統括を主として、保育現場向け求人パンフレットの業務委託、養成校懇談会等への出席調整他、係員7名の教員と共に就職と進路に関わる学生指導を統括。 (東京成徳短期大学)		
6) 学生委員会 副委員長	2023年4月 ～現在に至る	学内組織の再編成により、3)学生部を学生委員会に改称。再編成に伴い、役職は係長から副委員長に変更。 (東京成徳短期大学)		
7) 令和5年度短期大学認証評価 評価員	2023年4月 ～2024年3月	一般財団法人大学・短期大学基準協会より委嘱		
4 その他 特記事項なし				
研究業績等に関する事項				
著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要

(著書)				
1) 改訂新版『保育内容「健康」－生きる力を育む健やかな心とからだ－』（再掲）	共著	2017年9月	大学図書出版	2017年度より実施されている新しい保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容に基づき、いち早く現場の先生や養成期の学生が学べるよう、領域「健康」において学ぶべき内容を、現場の保育者、養成校の学生が共に学べるよう、項目ごとに分かりやすく事例をあげながら、理論的・実践的な内容としてまとめた。全135頁うち、第6章「健康に生きる力を育む」87-101頁を執筆。（宮下恭子、仁藤喜久子、梁川悦美、北洞誠一、山西加織、駒井美智子、山下麻実、平山素子、 <u>池田三鈴</u> 、青柳直子、茗井香保里）（掲載順）
2) 『運動あそび・表現あそび-指導方法を身につける理論と実例-』（再掲）	共著	2018年9月	大学図書出版	本書は2017年度より実施されている新しい保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に適合する内容をいち早く取り入れた指導書である。あそびの持つ本質としての楽しさや喜びに子どもたちが気づくことができるよう、実例を挙げながら解説した。全141頁うち、 ・第1章第3節「運動や表現の基礎となるもの」22-25頁、 ・第2章第2節「大型遊具を使ったあそび・パラバルーン」50-52頁、 ・第2章第4節「工夫するあそび・つくって遊ぶ」77-80頁、 ・第4章第3節(2)「子どもたちと創る表現遊び」114-118頁、第4章第4節(2)「ノリノリリズムで踊ってみよう」121-125頁、 ・第5章第2節「運動会や発表会の企画と演出(2)発表会の場合」135-137頁を執筆。 （宮下恭子、仁藤喜久子、細川賢司、北洞誠一、梁川悦美、塩崎みづほ、茗井香保里、白川哉子、佐野裕子、 <u>池田三鈴</u> 、永井伸夫）（掲載順）
3) 『乳幼児の健康－教育・保育に向けた計画と実践』（再掲）	共著	2019年9月	大学図書出版	本書では2019年4月からスタートした新法令に準拠し、領域「健康」を通して年齢区分に対応する「ねらい及び内容」、「健康と安全」及び「子どもの健康をめぐる現代の課題」などを分かりやすく解説した。また、教職課程コアカリキュラムに合わせて、領域「健康」に関する専門的事項「領域論」と保育内容の指導法に関する「指導法」をまとめた。全165頁うち、 ・第1章第2節(3)「成長に伴う心の発達について知る」19-24頁、 ・第2章第4節(1)「運動遊びの計画と立案」90-96頁、 ・第4章第3節「保育者の研修、保護者、地域社会との連携や支援」156-163頁を執筆。 （茗井香保里、宮下恭子、平山素子、今村貴幸、 <u>池田三鈴</u> 、梁川悦美、山西加織、青柳直子、仁藤喜久子、韓仁愛）（掲載順）

4) 『オンライン授業に対応 乳幼児・児童の運動遊びと表現あそびーからだところを育む指導法ー』 (再掲)	共著	2022年3月	大学図書出版	<p>本書では、三法令の指導内容に沿って子どもの運動遊び、表現遊びの指導と実践について解説を行った。内容には、教育実習や保育実習に役立つ指導案の実例を豊富に取り入れているほか、サブシートを加えることによって、短時間での学習指導や遊びの指導計画が作成できるように配慮した。さらには、COVID-19による教育・保育の混乱の経験を踏まえて、オンライン保育や教育に対応できる指導や実践例を加え、新たな状況に対応した内容として再構成している。全189頁のうち、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4章 表現遊びの実践 第2節「a. まねっこ遊び(模倣、即興)」 「b. バラバルーン」 97-105頁、 ・第5章 総合保育での遊び 第2節「b. ダンス、ミュージカルやオペレッタの発表会」 139-144頁を執筆。 <p>(茗井香保里、宮下恭子、関川満美、今村貴幸、三政洋一、北洞誠一、永井伸人、仁藤貴久子、塩田桃子、小林志保、塩崎みづほ、池田三鈴、矢野永吏子、赤塚めぐみ) (掲載順)</p>
5) 改訂版『オンライン授業に対応 乳幼児の健康ー教育・保育に向けた計画と実践』 (再掲)	共著	2023年3月	大学図書出版	<p>本書は2019年9月に発刊した『乳幼児の健康ー教育・保育に向けた計画と実践』の改訂版であるが、2019年末より起こった世界的な新型コロナウイルス感染症のパンデミックを踏まえ、大幅な内容を加えて編集し直している。またタイトルにもあるように、コロナ禍で経験した予測不可能な専門学習に備え、オンライン教材も新たに組み込んでいる。全181頁のうち、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1章1節(3)成長に伴う心の発達について知る 15-20頁 ・第4章1節(1)運動遊びの指導計画と立案(2)模擬保育と教材研究の方法 126-131頁 ・第5章3節 保護者・地域社会との連携や支援 163-169頁 を執筆。 <p>(宮下恭子、茗井香保里、平山素子、山西加織、今村貴幸、池田三鈴、永井伸人、塩田桃子、矢野永吏子、新井貴子、韓仁愛、小林志保、仁藤喜久子) (掲載順)</p>
(学術論文)				
1) ジャネット・アズヘッドの『舞踊分析法』に関する研究	共著	2000年3月	お茶の水女子大学大学院上演舞踊学研究室『上演舞踊研究』vol.1、28-37頁	<p>著書の背景、舞踊分析の考え方、解釈の概念、技能の問題の着眼点から詳細に考察し、舞踊分析の手順を著書に基づいて明らかにすると共に、その問題点について明確に提示している。28-37頁うち、30-32、33-34頁を執筆。(石黒節子、清水まあや、白井麻子、池田三鈴)</p>
2) Janet. Adshead の舞踊分析法における解釈研究 (学位論文)	単著	2001年3月	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科 (修士論文)	<p>J. アズヘッドによって記された2冊の理論書『Dance Analysis: theory and practice』(1988)と、『Dancing Texts: Intertextuality in Interpretation』(1999)において述べられる‘舞踊のテキスト’のとらえ方を比較検討し、舞踊の‘解釈’理論の展開について考察を深めた。さらに、現代ダンスの代表的な振付家であるフィリップ・ドックフレへのインタビューから導き出された言説を基に、現代ダンスの創作過程の一部を明らかにし、現代における舞踊解釈と作者の意図との関連性について提言を行った。</p>
3) Janet. Adshead 舞踊分析法の理論的展開ーDance Analysis から Dancing Texts へー	単著	2002年9月	お茶の水女子大学大学院、上演舞踊学研究室『上演舞踊研究』vol.3、23-27頁	<p>J. アズヘッドの舞踊分析法の理論的展開を明らかにするために、分析の対象となる舞踊の表記法‘Dance’から‘Dancing’への移行についてその意義を検討し、「舞踊というテキスト」の特質について詳細に論じた。また、舞踊のテキストにおける「読者」の重要性に着目し、R. バルトやU. エーコのテキスト理論を手掛かりとしながら、舞踊作品の内部に入り込む読者への考察を行った。</p>

4) ジャネット・アズヘッドの舞踊分析法を用いたダンス創作法実習の試み	単著	2004年3月	日本学術振興会助成「奨励研究」報告	主に舞踊学の基礎理論学習として用いられるJ. アズヘッドの舞踊分析理論を体育科教育の現場において実際に活用するため、理論に基づいた創作実験を試みることでその可能性を検討した。
(審査あり) 5) ジャネット・アズヘッドの舞踊分析法を用いたダンス創作法試案	単著	2004年3月	お茶の水女子大学『人文科学紀要』第57巻、225-236頁	平成15年度に日本学術振興会「奨励研究」として実践した内容を研究論文としてまとめたもの。創作実験を行なう前の理論的な意義付け、可能性、発展性について、原著をもとに考察した。
6) 「からだ育て」試案 ー野口体操を手がかりにー	単著	2004年3月	淑徳文化専門学校『研究紀要』第20号、11-15頁	「体ほぐしの運動」など、体育科教育分野において注目の集まるボディワークの先駆的存在である故野口三千三の考案した「野口体操」の方法論と動きの理論を手がかりとして、今後の体育科教育における「からだ育て」へのアプローチについて提案した。
7) 校内ダンスコンクールの実態を探る ーお茶の水女子大学附属高等学校の事例よりー	単著	2005年9月	お茶の水女子大学附属高等学校『研究紀要』第50号、105-148頁	創立130周年を迎え、昭和23年より女子教育の初期の表現教育として位置づいてきた伝統校で実施する「校内ダンスコンクール」の現代における体育科教育としての意義を探るため、歴史的な背景を辿りながら、今後の教育活動に向けてダンスコンクールという〈場〉の再解釈と再設定を試みた(全43頁)
8) 「異文化理解Ⅱ(2年生)総合的な学習の時間」授業報告	共著	2005年9月	お茶の水女子大学附属高等学校『研究紀要』第50号、75-85頁	お茶の水女子大学附属高等学校における「総合的な学習の時間」の授業で実施した「異文化理解」の学習プログラム(文化的学習、歴史的学習、実践的学習の方法)を具体的に紹介し、学習後の意識調査を踏まえながら、今後の課題を明示した。(木村政子、土方伸子、池田三鈴)
(査読あり) 9) Janet. Adshead の舞踊分析理論における「テキスト」の所在 ー作品生成過程への言及よりー	単著	2006年3月	お茶の水女子大学『人文科学研究』第1巻、29-37頁	コンテンポラリー・ダンス界をリードする振付家フィリップ・ドゥックフレへの独自のインタビュー資料と、これまでに検証してきた舞踊分析理論を対照させながら、「舞踊作品における「テキスト」の所在」について考察した。
10) 本校生徒の生活実態(ⅠⅤ) (第47回全附属高等学校教育研究大会報告)	共著	2006年9月	お茶の水女子大学附属高等学校『研究紀要』第51号、93-127頁	お茶の水女子大学附属高等学校における女子高校生の生活実態を探るため、全校生徒へのアンケート調査を実施し、現時点における生活動向や生活習慣の傾向、課題などについて把握し、保健体育科としての今後の教育活動への課題を明らかにした。(石井朋子、池田三鈴、石出みどり、植田敦子、玉谷直子、村野光則、原野泉)
11) 保育現場における身体性の再建を探る ー野口体操のことばと手法から	単著	2008年12月	埼玉学園大学『紀要 人間学部篇』第8号、163-175頁	教育現場において子どもたちの体を育てる活動を行う際、指導者がどのような「手法」と「ことば」を適用するべきか、という問題意識から、からだ育ての先駆的存在である「野口体操」の文献・実践研究をもとに、独特の動き用語、パートナーワークの有効性を明らかにした。
(査読あり) 12) "Yoga Ed. Pre-School Curriculum"の事例研究 ー幼児期におけるヨガ教育のねらいを中心に	単著	2011年2月	淑徳短期大学『研究紀要』第50号、203-223頁	幼少期の身体活動をサポートするカリキュラムが切望される昨今、教育現場における具体的な手法の一つとしてアメリカの幼・小・中・高等学校において数多くの実践事例を持つ「キッズヨガプログラム」について実践例と共に具体的に紹介した。また日本における導入の留意点やアレンジ等について考案した。
13) 保育者養成課程における表現体験を考える ーダンスパフォーマンス企画“ALIVE”の制作事例より	単著	2013年3月	東京立正短期大学『紀要』第41号、60-78頁	保育者を目指す学生における表現体験の諸相を分析し、養成校において課せられる課題の明確な把握を試みた。音楽表現と身体表現(ダンス)が一体となった研究授業の事例を踏まえながら、専門教科の枠組みを超えた表現体験が学習者にもたらす成果について考察した。

<p>14) 身体表現プロジェクトが保育学生にもたらす原体験を考える ー養成課程におけるプロジェクト学習の位置付けと方向性の検討よりー</p>	<p>単著</p>	<p>2016年3月</p>	<p>東京成徳短期大学『紀要』第49号、1-23頁</p>	<p>本研究では、身体表現プロジェクトにおいてどのような学習プロセスが、保育学生の人間力・即応力を引き出すのかに着目した。学習過程で獲得される「原体験」や「プロジェクト」、「アクティブ・ラーニング」という学びの仕組みと方法が生み出す内容にも言及した。 履修学生から収集したアンケート調査の結果からは、「達成・自信・貢献」というキーワードが抽出され、長期的な創作過程がもたらす学習の場がもたらす学習成果が明らかになった。さらに「上演」という一時的な学習の場を加えることによって、より濃縮された学習体験が得られていることが推察された。</p>
<p>15) 身体表現プロジェクトの自己組織化を検討する ー保育学生の総合的な人間力向上をねらうダンス授業の試みー</p>	<p>単著</p>	<p>2017年3月</p>	<p>東京成徳短期大学『紀要』第50号、1-17頁</p>	<p>本研究では、プロジェクト学習として実施する舞台制作と上演において、学習者「個」から「チーム」へと自ずと組織化する現象「自己組織化」に着目した。分析ツールとしてKH Coderを用い、テキストマイニングを通して学びの中で生じている現象の多様性や傾向、そしてその中身について言及することを試みた。 結果、学習者が「個」からチームへと自律的な組織を形成していく様子が浮かび上がった。また、今回作成した共起ネットワークや自己組織化マップは今後指導の立場に立つ教師にとって、ある程度のレベルを引き出す指導言語や状況判断に有効活用されると期待された。</p>
<p>16) 幼児期における身体表現や運動あそびの指導課題に関する考察ー各年齢児クラス担任の言述よりー</p>	<p>単著</p>	<p>2017年10月</p>	<p>東京成徳短期大学『紀要』第51号、1-12頁</p>	<p>本研究では幼児期の各年齢児とそこに携わる教員課題の特色を探り、活動実態と指導課題の分析を行った。 結果、年少児から年長児に向かうに従い、活動主体としての子どもの拡大化、それに対応する援助・指導の多様化が明らかとなった。保育活動全般に見受けられる「苦手な子」「興味を示さない子」への対応は年齢が上がるにつれて難化し、教員が抱く課題も多様化する傾向も明らかであった。特に、年少児を担当する保育者から、「レパートリー」すなわち、より多くの活動のツールの習得を求める内容や運動発達や段階についての理解不足についての記述が目立っていたことから、低年齢児の活動のバリエーションアップや発達理解を抑えた援助指導が、その後の子どもの「楽しい」「もっとやってみたい」へとつながる可能性が推察された。</p>
<p>17) (査読あり) 戦後の保育内容史における身体表現の系譜と現代的意義 ー戸倉ハル、斎藤公子を中心にー</p>	<p>共著</p>	<p>2023年3月</p>	<p>桃山学院教育大学『研究紀要』第5号、46-60頁</p>	<p>幼児教育保育内容の歴史において、身体表現の系譜としての「お遊戯」は当時の中心的な保育内容であり、現代の身体表現の基盤となっていると考えられるが、ほとんどその検証はなされていない。本稿では、幼児期の保育内容として、身体で経験するリズム・音楽的体験、自然と題材とし子どもの心情に沿った作品として文化的意義の大きい戸倉ハルと斎藤公子の指導理念や方法から、改めて現代の保育内容における身体表現への示唆を得ることを試みている。 (名須川知子、才賀敬、原友美、今泉良一、池田三鈴) 3. 戦後の身体表現の系譜を分担執筆</p>
<p>18) コロナ禍における「ふれあい」を主眼においた子育て支援ワークショップの再構築を考える ー北区の「親子のふれあいワークショップ」を事例としてー</p>	<p>単著</p>	<p>2023年3月</p>	<p>東京成徳短期大学『紀要』第56号、51-64頁</p>	<p>表現素材を用いた大学の近隣地域における子育て支援ワークショップ事業を通して、人と人との接触が大きく制限されたその後、大学や地域において「ふれあい」がどのように再解釈・再構築されていくのかに着目し言及を行った。 都心部における子育て支援事業の状況を概観しながら、今後コロナ禍の規制が緩和される中で、どのような活動展開や活動における留意点が必要であるのかを考察した。</p>
<p>(学会発表)</p>				

1) ジャネット・アズヘッドの『舞踊分析法』に関する研究	口頭発表 (共同)	1998年12月	第46回秋季舞踊学会(奈良女子大学)、舞踊学、第22号、95頁	英国において舞踊研究の基礎理論を構築したジャネット・アズヘッドの『舞踊分析法—その理論と実際』(1988年)について、その実際の分析手順の理解を行い、出版より10年を経たこの方法論の価値と問題点を指摘し考察した。
2) ジャネット・アズヘッドの舞踊分析法を用いたダンス創作法実習の試み	口頭発表 (単独)	2003年9月	第54回日本体育学会大会(熊本大学)、大会プログラム、550頁	主に理論基礎として用いられるJ.アズヘッドの舞踊分析理論を実践へとリンクさせるための研究。分析理論の指標を用いたダンス創作の実験を行い、その成果について分析・考察を行った。
3) "Yoga Ed. Pre-School Curriculum" の事例研究—幼児期におけるヨガ教育のねらいを中心に	口頭発表 (単独)	2012年8月	日本体育学会第63回大会(東海大学)、大会プログラム、293頁	アメリカ合衆国の27の週において幼・小・中・高の150校で実践例を持つヨガカリキュラムの幼児期における教育的な意義と有効性を考察し、保育者養成校における技術習得の可能性、学習成果について報告した。
4) 身体表現プロジェクト“ALIVE”が保育学生にもたらす表現体験の原体験を考える—パフォーマンスという磁場が生み出す保育現場への即応力との関連性に言及して	口頭発表 (単独)	2015年8月	日本体育学会第66回大会(国士舘大学・世田谷キャンパス)、大会プログラム、387-388頁	本研究では、身体表現プロジェクト“ALIVE”のパフォーマンス実践における保育学生の実体験をクローズアップしながら、そこにおいて学生が獲得した体験を明らかにした。学習体験におけるどのような要素が保育現場における即応力の原体験としてなり得るのかという視点で考察を深め、今後の実践における課題を明らかにすると共に身体表現プロジェクトがもたらす学習成果として、即応力との関連性について、学習場面の段階に応じた言及を行った。
5) 身体表現プロジェクトが保育学生にもたらす表現の原体験を考える—パフォーマンスの持つ「磁場」への言及より—	ポスター発表 (単独)	2015年8月	日本幼児体育学会 第11回大会(京都ノートルダム女子大学)、講演要旨・研究発表抄録集、125-126頁	身体表現プロジェクトにおける、舞台という非日常と、その創作・制作過程における人と人の中に派生する「磁場」が作品を生み出す力となると同時に保育者としての人間性や企画力、行動力を育む大きな可能性を秘めていることに着目し、今後のプロジェクトの方向性や学習プロセスの在り方、学習の場の組み方におけるキーワードとして、舞踊上演において特有の「磁場」を取り上げ言及した。
6) 身体表現プロジェクトの自己組織化を検討する—保育学生の総合的な人間力向上をねらうダンス授業の試み—	口頭発表 (単独)	2016年8月	日本体育学会第67回大会(大阪体育大学)、大会プログラム、294頁	テキストマイニングによる学習者の言説分析からは、「自分」というワードがかなり高い頻度で抽出された。関連する言葉と合わせて考察すると、学習者が「自分」のあり方や感じ方、考え方に言及し内省しながら、他者を見るという視点が浮かび上がってきた。こうした活動における自己の振り返りは振り返りだけの実践的な課題やシーンがあり、それに対して、積極的に取り組んだ証といえる。内省的記述からも明らかであるように、保育という現場で、人を育て、育む立場になる学生が、主体的に「面白いこと」「辛いこと」を経験し、協働する場を共にする中で、体験したことを実践知として自分のものとし、「個ではなく他者と共に自己組織化していく中」に、人間的成長が創出される場が現れていると考えられた。
7) 身体表現プロジェクトの自己組織化を検討する(2)—その要因に着目して—	ポスター発表 (単独)	2016年8月	日本幼児体育学会 第12回大会(日本女子体育大学)、講演要旨・研究発表抄録集、120頁	身体表現プロジェクトの実践では、その学習の場を適切に解釈することが、即応的な指導や本来的な援助につながる。しかし実際には、その内容を要約し、客観的に全体の傾向を把握しようにも、分析者の主観や恣意的な解釈から逃れることが難しく、極めて困難であることがこれまでの課題として挙げられている。本研究では、こうした客観性を保つ分析法を探るため、KH Coderを用いたテキストマイニングによる分析を試みた。結果、「自己組織化」という現象における中心的課題の有効要因として「経験」、阻害要因として「時間」を検出した。またその関連語からは有効な指導の方向性が導き出されると考えられた。

<p>8) 保育者における学びの階層と暗黙的課題に関する研究 ー動きを伴う保育活動の指導課題よりー</p>	<p>ポスター発表 (単独)</p>	<p>2017年5月</p>	<p>日本保育学会 第70回大会 (川崎医療福祉大学)、大会プログラム、127頁</p>	<p>本研究では、現職者が抱く「動きを伴う保育活動」における指導課題に着目し、テキストマイニングの手法 (KH Coder, Ver. 2. 00f) を用いることにより、現場で生じている指導課題の実態と傾向を客観的に把握し、浮上する課題と解決策を言及することを試みた。 結果、各年齢児の担任が抱く指導課題の傾向を把握した上で、年少児の時期に浮上する内容に注視すること、身体表現の活動展開や題材に関する補完学習、発達理解を中心とした理論の学び直しを重ねることが、より早く子どもの実態や指導課題に即した活動展開を促す近道であると考えられた。</p>
<p>9) 教師が感じる幼児期の身体表現や運動あそびにおける指導課題について ー各年齢時の担任が抱える課題分析よりー</p>	<p>ポスター発表 (単独)</p>	<p>2018年8月</p>	<p>日本体育学会 69回大会 (徳島大学)、大会プログラム、142頁</p>	<p>本研究では、まず各年齢児の活動状況から年齢児ごとの指導課題の特色を掴むこと、第二に、その課題が年齢を追うごとにどのように変容し、保育者の指導課題の起点となっているのかについて探ることを大きな目的として調査分析・考察を行った。結果及び考察より、各年齢児における課題が子どもの成長発達によって大きく変容し、各年齢児において特徴的な課題を出現させていることが明確になった。中でも年中児は、運動発達面では身体を使った活動が大きく多様化する時期であり、指導課題も爆発的に増える時期であることが分かった。また運動技能も見える化しやすくなることから、「苦手意識」もより強く浮上してくる頃であり、心理面の発達からもその対応や適切な活動内容の提案などが難しく感じられるのではないかと考えられた。</p>
<p>10) 表現におけるリズムの史的変遷から保育内容を探る</p>	<p>シンポジウム (共同)</p>	<p>2020年5月</p>	<p>日本保育学会 第73回大会 (奈良教育大学)</p>	<p>保育史上蓄積されてきた遊戯におけるリズムが、子どもへの内容への大きな示唆のある文化財としての価値が大きいことを再評価することをねらい、史的変遷におけるその保育内容を吟味し、今後に伝えていくべきことについて議論を深めた。拙者は特に、「今、ここ」にある保育へと繋ぐエッセンス～戸倉ハルと斎藤公子に学ぶ」というテーマに基づき、戸倉ハルと斎藤公子の指導における振付の発想や表現対象そのものの様子を端的に表す動きの構成、幼児期の律動性と身体・運動・脳の発達に沿った指導理念、運動生理学的な裏付けの視点などに着目し、その指導方針の中から今も昔も変わらず「今、ここ」にある保育現場へと繋ぐべき戸倉や斎藤の思想と身体表現教育の中核的なエッセンスに言及した。(名須川知子、才賀敬、原友美、今泉良一、池田三鈴)</p>
<p>11) 身体表現におけるリズムの史的変遷ー保育内容「表現」の展望</p>	<p>シンポジウム (共同)</p>	<p>2021年5月</p>	<p>日本保育学会 第74回大会 (富山大学)</p>	<p>2020年度に引き続き、保育内容史上に蓄積されてきた身体表現活動について、その現代にも継続すべきこと、今後の保育内容における身体表現のあり方を明らかにすべく、オンラインによるシンポジウムを開催し、約60名程度の研究者、保育関係者と議論を共有した。 今回は、前年度の内容から展開し、戸倉ハルを中心とした幼児のお遊戯にみられる特性、その後の坂元彦太郎への伝播と教育要領への反映、そして、斎藤公子、丸山亜季への影響も含めて、現代の保育内容と今後の「表現」領域の内容の展望とし、伝えるべきものについて議論を行った。(名須川知子、才賀敬、原友美、今泉良一、池田三鈴)</p>

12) 幼児期の運動あそび・表現あそびの援助における現職保育者の現状課題を探る —養成校での学修方法への展望—	ポスター発表 (単独)	2023年9月	第73回日本体育・スポーツ・健康学会大会 (同志社大学)	本研究は、コロナ禍以前定期的実施してきた現職者研修が2023度は対面実施での再開を迎え、コロナ禍を経て改めて保育現場における現状課題を探り、養成校での専門学習としてどのようにフィードバックすべきか展望するための第一歩である。2023年度の調査によれば、幼児期の運動あそび・表現あそびの援助における困り事としては、発達支援に関わる内容が増加傾向にあることがわかった。 発表では、保育者の年代別の課題傾向を提示すると共に、「子ども主体」や「子どもの声(ボイス)」を捉える援助指導への過渡期にある今、子どもや状況に応じて知識を引き出し、応用、判断し、実践に繋げる力へと結びつける学びの重要性が増してきていることを踏まえ、養成期に必要なとされる学修方法について提案することを試みた。
13) 幼児期の運動あそび・表現あそびの援助指導に関する学修方法への展望	ポスター発表 (単独)	2023年12月	第43回全国創作舞踊研究発表会 (岐阜大会)	本研究では、コロナ禍を経て、個人の価値観も変容しつつある今、子どもや状況に応じて知識を引き出し、応用、判断、実践できるようになるためには、養成期にどのような学習活動を行うことが有効か考察し、学修方法への展望を試みた。 2023年度に実施した現職研修会での調査によれば、幼児期の運動あそび・表現あそびの援助における困り事としては、発達支援に関わる内容や運動発達への理解不足が目立ち、保育経験の年数に関わらず、質問項目への自己課題意識が高い状態が継続していることがわかった。 結果考察からは、養成校等で必修内容として組み込まれている幼児期の運動発達、運動技能の獲得、社会性の発達、自我やパーソナリティの発達、発達特性を踏まえた援助や支援に関する基礎理論の理解が「やや不足している」という保育者の自覚が過半数を超えていることが明らかとなり、「子どもと向き合い感覚的に実践している」という課題が浮き彫りとなった。
(研究助成・研究協力)				
1) 「ジャネット・アズヘッドの舞踊分析法を用いたダンス創作法実習の試み」(再掲)	単独	2003年4月 ～ 2004年3月	日本学術振興会 「奨励研究」	主に舞踊学の基礎理論学習として用いられるJ.アズヘッドの舞踊分析理論を体育科教育の現場において実際的に活用するため、理論に基づいた創作実験を試みることでその可能性を検討した。 (200千円) (お茶の水女子大学)
2) 「乳幼児親子の日常回帰を支援する“表現あそびプログラム”の開発」	研究協力	2011年4月 ～ 2012年3月	早稲田大学 特定課題研究A	平成23年度特定課題研究助成費特定課題A(代表:弓削田綾乃、早稲田大学)における研究協力者として、被災地の親子を対象とした“表現あそびプログラム”の考案と実践。特にヨガプログラムについては中心的に活動。 (弓削田綾乃、竹内エリカ、池田三鈴)
3) 原発事故を受けた子どもの日常回帰を支援する“表現あそびプログラム”	研究協力	2012年4月 ～ 2014年3月	日本学術振興会 科学研究費「若手B」 (研究課題番号:24700627)	科学研究費「若手B」、研究課題番号:24700627(代表:弓削田綾乃、早稲田大学)における研究協力者として、被災地における親子を対象とした身体表現プログラムの開発と実践、DVD、成果資料の作成に協力した。 (弓削田綾乃、竹内エリカ、池田三鈴)

(注) 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。